

令和 3 年 6 月 22 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00686

研究課題名(和文) アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究

研究課題名(英文) Research and Development of CEFR Proficiency Description Methods with special consideration for linguistic types and soci-cultural diversity of Asian Languages

研究代表者

富盛 伸夫 (TOMIMORI, NOBUO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・名誉教授

研究者番号：50122643

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」(以下CEFR)は急速に世界各地に普及しつつあり言語教育の理念と現場を変容させている。本研究は日本語を含めた非EU言語へのCEFRの適用妥当性を精査しつつ、第一に、東南アジア諸語教育への適用に際して社会・文化的特質を考慮した新たな言語能力記述方法を提案してCEFRの適用可能性を拡げ、第二に、アジア諸語圏の複言語・複文化社会における言語コミュニケーション能力の評価法を検証した。第三に、日本の現代社会のニーズも視野に入れ、CEFR受容と関わる中等教育・高等教育の接続と複言語・複文化教育政策の問題点を指摘した。以上の研究成果は東京外国語大学のサイトで発信している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はEUの社会的・文化的環境とは異なるアジア諸語地域のコミュニケーションの特質を分析し、CEFRの適用妥当性を独自の研究展望から検証した。特にアジア各地の複言語・複文化間言語コミュニケーションの特質を精査し、言語構造的特徴や語用論的方略に配慮した社会的・文化的適切性(Appropriateness)の指標を新たにCEFRの記述項目に設定して効果的な言語能力評価方法の開発を行った。EUはCEFRの追補版Companion Volume2018およびCEFR2020を提示したが、その問題設定と研究展望を共有する本研究は、現代日本の言語教育の諸問題の解決に貢献しうる先駆的で示唆的意義をもつ。

研究成果の概要(英文)：The Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) is rapidly spreading in various parts of the world and is transforming the philosophy and practice of language education. In this study, we examined the applicability of the CEFR to non-EU languages, including Japanese, and proposed a new method of describing language proficiency that takes into account social and cultural characteristics when applying the CEFR to Southeast Asian languages. Second, we developed a method for assessing linguistic communication skills in a multilingual and multicultural society of Asian language areas. Thirdly, we examined crucial issues on the connection between secondary and higher education and the policy of multilingual and multicultural education in relation to the acceptance of the CEFR, taking into account the needs of modern Japanese society. The results of the above research are available on the website of Tokyo University of Foreign Studies.

研究分野：言語学、言語教育学

キーワード：CEFR アジア諸語 言語類型 社会・文化的特質 言語コミュニケーション能力評価法 言語運用の社会的・文化的適切性 参照軸としてのアジア諸語研究

## 1. 研究開始当初の背景

我が国の言語教育の目標として様々な方面から、地球的課題に取り組む上で必要な世界諸地域の人々と協働するグローバル・インターフェース力を持つ人材の養成が急務であると強調されている。このためには英語のみならず非欧米諸語の複数言語の運用能力を習得させる教育が必要であり、言語教育現場では通言語的成績評価の透明性が確保されるべきである。折しも、ヨーロッパ連合 (European Union) (以下、EU) では、EU 統合の要として設計された言語政策「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」(Common European Framework of Reference for Languages、以下 CEFR) のガイドラインが 2001 年に公表されて約 20 年を経ようとする現在、その理念 (行動中心複言語主義、コミュニケーションタスクと解決能力の育成、通言語的到達度評価方法など) と実践面の実績は急速に世界各国に影響を拡げつつあり、言語教育の現場そのものを容容させている。

しかしながら、文字体系・音声組織・文法構造の隔たり、そして談話・語用論面を含め社会・文化的特性の隔たりが大きい非 EU 諸語への CEFR 適用可能性の研究は本格的には着手されておらず、通言語的測定尺度は確立されていないのが現状である。特にアジア地域の言語教育開発は個別言語研究の枠を越えてはならず、現在、アジア諸語の特性に適合した効果的な言語能力測定法の開発が望まれている状況である。この点において、我々日本とアジア諸国の当事者が協働して研究活動を先鋭化し、非 EU 言語にも適用しうる新たな、より汎用性のある通言語的な妥当性の高い共通参照枠組みを開発するための方策を提案しうる可能性がある、といえる。

本研究の「学術的問い」は、非 EU 言語地域に多様な社会的・文化的コンテクストをもつ言語使用の様態があることを考慮するならば、「CEFR の適用に際してどのような配慮をするべきか？」つまり「CEFR が、EU 域内の諸言語と多くの面で特質が異なる言語に適用範囲を拡大するとき、どのような問題が生じるのか？」である。そして、「研究対象であるアジア諸語にも適用しうる言語的、社会・文化的、語用論的特性を考慮した『妥当性』の高い通言語的測定尺度はどのように開発しうるか」を明示することである。

それでは、本研究はなぜアジア、特に東南アジアに注目するのか？ 富盛代表の先行する科研では、日本で潜在的ニーズが高まり学習の機会が増えているアジア諸語について 2012 年以来東京外国語大学を中心に東アジア・日本語から西アジア・ペルシア語までの言語教育者を分担者として検証を進めてきた結果、東南アジア諸語は社会・文化的特質の共通要素が多く、これを研究例として、かつ日本語、朝鮮語等の東アジア諸語を参照例とすることが CEFR の適用範囲を拡げるための適切な方策開発の研究に有効であることが確認されたことによる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本語を含めた非 EU 諸語、特にアジア諸語への CEFR の適用可能性の検証が現時点で必要となっているという認識から、以下の 3 点に集約される。

- (1) EU で現在進行中の CEFR 改訂の動向をふまえ、国内外の研究者とも連携しつつ、CEFR の東南アジア諸語への適用に際して必要となる言語類型論的、社会・文化的特質を考慮した新たな言語能力記述方法を提案して日本および世界の言語教育分野に発信し、より柔軟な CEFR の適用可能性を拡げることに貢献すること。
- (2) アジア諸語地域で言語学習者の複言語・複文化状況に配慮した言語コミュニケーション能力の新たな評価法と教育方法に向けて研究すること。
- (3) CEFR-J の実装を進める日本の言語教育政策および現代社会のニーズ、特に中等教育や生涯教育との接続も視野に入れ、日本における CEFR の受容の様態を検証すること。

以上の研究目的に接近するため、我々は研究プロジェクトを組織し、特に、EU で 2018 年に発表された CEFR の追補版 *Companion Volume with New Descriptors* (以下、*CEFR CV2018*) と 2020 年に発表された改訂版 (以下、*CEFR2020*) の最新動向をふまえ、アジア諸国の研究者・教育者とも連携しつつ、日本および世界の言語教育分野に研究成果を還元し貢献することに努めてきた。

### 3. 研究の方法

本研究プロジェクトでは研究計画に対応した 3 つの作業班を組織し、分担者は各専門研究領域において計画遂行に向けて協働した。国内外との研究連携とプロジェクトの運営は研究統括班が管理することとした。

A 班：EU の均質的な土壌に生まれ適応環境に制約のある CEFR を批判的に検討し、それとは異なる東南アジア諸語の言語的・社会的・文化的多様性を考慮した付記事項 (South Asian Supplements) 付きの能力記述項目を開発し、より適切に運用しうる柔軟な能力評価方法を提案する。

B 班：EU による CEFR 追補版 *CEFR CV2018* における複層的異文化間言語教育に関する動向の調査と 2020 年に発表され改訂版として位置付けられる *CEFR2020* における社会文化的仲介能力の重要性を確認しつつ、東南アジア言語圏の複層的言語使用を分析し言語学習者の複言語使用状況に配慮した言語コミュニケーション能力をスケールリングするための方法論的研究を行う。

C 班：B 班の課題研究の視点を日本の複言語学習の再検証作業に応用し、中等教育・高等教育および社会的ニーズに対応した生涯教育における複数言語の能力到達度評価法の改善に向けて成果を発信する。

研究統括班：上記 3 つの研究作業班の円滑な課題遂行を把握・管理し、研究代表者富盛が長として総括的責任を持つ。統括班は、報告書の編集委員会や予算執行の管理などにも関与する。

研究連携体制：国内外の言語能力評価法研究分野の専門家との協力により講演会、シンポジウムへの参加を含む研究協力体制が得られている：インド・デリー大学、フィリピン・デラサル大学、マレーシア・マラヤ大学、南オーストラリア州教育省など。

国内では CEFR 研究グループ (東京外国語大学 CEFR-J など)、JLC 日本語スタンダード研究プロジェクト、立命館アジア太平洋大学、神田外語大学など、多くの他の科学研究費助成事業による研究グループと連携している。

### 4. 研究成果

以下に各作業班別の研究活動の経過と成果を記す。

A 班：2018 年度は、研究対象のアジア諸語について社会・文化的付記事項付きの能力記述項目を抽出し、日本語・韓国語を含む言語の実情に応じて CEFR の A1~C1 レベルに定義することにより、EU の CEFR スケールリングと調整する作業を行なった。分担者は担当地域の研究連携機関・研究者と協働し、各地に特徴的な語用論的ストラテジー (売買などの交渉、依頼、断り、謝罪、提案など) や配慮表現など、東南アジア版能力評価記述項目に反映しうるような社会・文化的指標の抽出を行った。

2019 年度は社会内関係が反映した待遇機能・談話構成や会話体・文章体の交替も研究対象として包括し、異文化間言語コミュニケーション能力 (言語的応対能力の「適切性」Appropriateness) の記述方法の試案作成に向けた協働作業を展開した。

2020 年度には東アジア・東南アジア地域の各言語に適した能力評価記述項目 ( descriptors ) を組み込んだ CEFR のアジア諸語対応版を提案し、教育現場への反映などの問題点を精査した。

B 班：2018 年度は A 班のメンバーと協働しつつ各言語地域の複層的言語コミュニケーションの実際についてサンプリングをして社会・文化的視点からの動態的分析とモデリングを進めた。研究協力者である荻原寛 ( フィリピン の 社会言語学的動態研究 )、内藤理佳 ( マカオ・ポルトガル語系話者の言語・文化・社会コミュニケーション研究 )、アラールディーン・スライマーン ( アラビア語圏の社会・文化的特質研究 ) からの知見と寄与により研究の幅と複眼的思考が得られた。

2019 年度と 2020 年度は東南アジア言語圏の動態的・複層的言語使用と言語学習者の複言語使用状況を考慮した言語コミュニケーション能力の分析と教材などの開発を試みた。

特記すべきは神田外語大学との研究連携でインドとフィリピンからの研究者による国際講演会を開催し、アジアにおける英語変種と「世界英語」( World Englishes ) に関する研究にも視野を広げることができたことである。

C 班：2018 年度は国内の CEFR 研究グループや他の言語能力評価法の研究者との研究交流により、中等教育や生涯教育を含む一般社会にも妥当性の高い複言語能力到達度測定モデルを構築するための研究を進めた。

2019 年度と 2020 年度は CEFR-J 研究者などと連携して日本の言語教育政策および中等教育や生涯教育との接続も視野に入れ、日本の言語教育に適用しうる複言語使用の能力記述方法の研究を行い、担当者が各自の領域で成果発信を行った。

特に、2019 年にはオーストラリアとマレーシアから言語教育政策担当者と英語教育、複数言語教育の専門家を招聘し、両国における中等・高等教育の教育政策と最新の言語教育改革に関する最新情報を得ることができ、日本の言語教育政策に関する有益な示唆を得た。

## 国際研究連携とその成果

(1) 国際ワークショップ：「言語教育 ( CEFR ) 国際ワークショップ」( 2019 年 9 月 27 日 )

東京外国語大学語学研究所の共催により開催した本ワークショップは「言語教育 ( CEFR ) 国際ワークショップ：アジア・太平洋地域の言語教育」と題し、オーストラリアとマレーシアから言語教育、言語教育政策の専門家を招聘し、中等・高等教育の接続や教育政策の観点を含め、両国の最新の言語教育改革への取り組みに関する最新情報が提示された。特に CEFR の受容や反響は国や関係機関ごとに多様であり地域の教育背景や実情にあわせたカスタマイズの努力が続けられていることが把握できた。

(2) 国際研究集会 ( 講演会 )

2018 年 4 月から 2019 年 3 月の間に国外からの言語社会学、言語教育学の専門家を講師に招いて 3 回の国際研究集会を開いた。特に多言語社会研究に秀でたインド・デリー大学とフィリピン・デラサル大学の研究者からは、多言語社会研究の視点から複言語教育の実際と問題点などの最新情報が得られ、本研究の B 班に関わる言語・文化の複層的状況における言語社会学・言語教育学上の知見を得ることができた。

主な研究発信では、上記国際研究集会の他、研究期間中に本科研の主催で合計 9 回の研究集会

を開催し、研究班ごとの研究成果の交流に努めた。海外での成果発表としては、藤森弘子は2018年8月イタリアで開催された「ヴェネツィア 2018年日本語教育国際研究大会」に参加し研究発表を行った。野元裕樹は2018年12月にシンガポール国立大学で開催された言語教育シンポジウム CLaSIC2018 でマレーシア語学習者の学習動機に関わる発表を行った。

2018年12月外国語教育学会第22回大会シンポジウム『CEFRと言語教育の現在』において研究代表者富盛伸夫は基調講演「CEFRと言語教育の現在、欧州諸語からアジア諸語への適用妥当性」を行い、本科研の研究課題に関する成果の公開とともに貴重な意見交換を行うことができた。中でも、EUの参照枠組みをアジアの視点から組み直す意義に言及するとともに、個別の言語教育研究と一般言語学研究との相互還流の重要性を、本研究の研究展望として強調した。

以上の研究経過と成果発表は、東京外国語大学語学研究所及び本科研のサイトで随時発信している。( [http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/Asia\\_CEFR2020/index.html](http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/Asia_CEFR2020/index.html) )

### 総合的自己評価と総括

総じて3年の研究期間のうち当初2年間は、研究成果を国内外の関係学会・研究集会および、分担者・研究協力者が執筆した中間報告書『アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究-中間報告書(2018-2019)-』をWeb上で公開したことで課題と問題点の喚起を図るなど、当初の目的と計画に従って研究活動は全体として順調に進展したといえる。当初2年間の研究成果の報告書は東京外国語大学語学研究所のWebサイトに公開されている。( [http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/Asia\\_CEFR/index.html](http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/Asia_CEFR/index.html) )

2020年1月から深刻化した感染症の拡大による現地調査や講師招聘を伴う国際研究集会などが開催不可能となり、異例の事態が長期間に渡って続いたにもかかわらず、研究参加者各自が分担する専門領域での成果発信として最終的な研究成果報告書『アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究-研究成果報告書(2018-2020)-』( *Research and Development of CEFR Proficiency Description Methods with special consideration for linguistic types and socio-cultural diversity of Asian Languages :Final Report 2018-2020* )( 244 ページ ) の作成とWeb上での公開ができたことにより研究成果の一定の還元ができたと考える。

( [http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/Asia\\_CEFR2020/pg695.html](http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/Asia_CEFR2020/pg695.html) )

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計37件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 28件）

1. 著者名 富盛伸夫	4. 巻 22
2. 論文標題 CEFR と言語教育の現在 - 欧州諸語からアジア諸語への適用妥当性 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 278-286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富盛伸夫	4. 巻 1
2. 論文標題 「アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究」の概要と活動実績 (2018 - 2019)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究 - 中間報告書 (2018 - 2019) -	6. 最初と最後の頁 121-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 スニサー ウィッターヤーバンヤーノン、富盛伸夫	4. 巻 23
2. 論文標題 タイ語教育における社会文化的適切性と CEFR への適用 - ポライトネス理論の視点から見た人称詞・呼称表現を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 96-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富盛伸夫	4. 巻 1
2. 論文標題 社会・文化的特質を考慮したコミュニケーション能力評価法をめぐって： アジア諸語版の試み (2018 - 2019) - アジア諸語を対象にしたCEFR 受容で見えてきたものと捉えがたいもの -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究 - 中間報告書 (2018 - 2019) -	6. 最初と最後の頁 73-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤森弘子	4. 巻 1
2. 論文標題 社会・文化的特質を考慮したコミュニケーション能力評価法：アジア諸語版 - 日本語版作成の試み -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究 - 中間報告書（2018 - 2019） -	6. 最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田原洋樹	4. 巻 1
2. 論文標題 『外国人に対するベトナム語能力枠』を考える - わたしたちは、教室の先にある「社会」を見ているのか -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究 - 中間報告書（2018 - 2019） -	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 根岸雅史	4. 巻 1
2. 論文標題 CEFR-J に基づく英語テストのアジア言語への翻訳可能性 - リーディング・テストとライティング・テストに焦点を当てて -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究 - 中間報告書（2018 - 2019） -	6. 最初と最後の頁 43-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 峰岸真琴	4. 巻 1
2. 論文標題 CEFR の日本社会における 受容について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究 - 中間報告書（2018 - 2019） -	6. 最初と最後の頁 113-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 峰岸真琴、スニサーウィッタヤーバンヤーノン	4. 巻 2
2. 論文標題 タイ語の主題とその談話での現れ方について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語の類型特徴対照研究会論集	6. 最初と最後の頁 111-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hiroki Nomoto	4. 巻 1
2. 論文標題 Towards genuine stemming and lemmatization in Malay/Indonesian	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語処理学会 第26回年次大会 発表論文集	6. 最初と最後の頁 1033-1036
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野元裕樹、川村よし子	4. 巻 21
2. 論文標題 マレー語学習者を対象にした読解学習支援システムの開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 215-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Nomoto, David Moeljadi	4. 巻 67
2. 論文標題 Linguistic studies using large annotated corpora: Introduction	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 NUSA: Linguistic studies of languages in and around Indonesia	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94450	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する



1. 著者名 Asako Shiohara, Yuta Sakon, Hiroki Nomoto	4. 巻 67
2. 論文標題 Discourse functions of the two non-active voices in Indonesian: Based on the web corpus data in MALINDO Conc	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 NUSA: Linguistic studies of languages in and around Indonesia	6. 最初と最後の頁 77-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94453	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南潤珍	4. 巻 1
2. 論文標題 韓国語母語話者と韓国語学習者の作文から見たハングル正書法の現状と課題 (原文韓国語)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 韓国語教育の現状と課題: 韓国語正書法教育を中心に	6. 最初と最後の頁 99-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 関屋康、矢頭典枝	4. 巻 30
2. 論文標題 KANDA x TUFS 英語モジュールにみる インド英語の発音の特徴	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語教育研究	6. 最初と最後の頁 99 - 133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 FURIHATA, Masashi	4. 巻 24
2. 論文標題 An Analysis of Pitch Movement of Sentences with Topic Markers in Sundanese	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京外大東南アジア学	6. 最初と最後の頁 80-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 FURIHATA, Masashi	4. 巻 1
2. 論文標題 Dilema antara Desakan Standardisasi Bipa dan Praktik Pengajaran	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Prosiding Konferensi Internasional Pengajaran Bahasa Indonesia bagi Penutur Asing (KIPBIPA) XI 2019.	6. 最初と最後の頁 26-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木玲子	4. 巻 25
2. 論文標題 ラオ語ルアンパバーン方言の音韻体系	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京外大東南アジア学	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94090	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 益子幸江・鈴木玲子	4. 巻 99
2. 論文標題 ラオ語の3語文における声調についての音響音声学的研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 92-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94295	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 スニサー ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤)	4. 巻 22
2. 論文標題 タイ語での一人称表現の使用意識とタイ語教育での課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 99-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 スニサー ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤)	4. 巻 99
2. 論文標題 タイ語での二人称表現の使用意識とタイ語教育の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 173-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94299	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 拝田清	4. 巻 6
2. 論文標題 英語教育のユニバーサルデザインに向けて オーストラリア・アデレード市における特別支援教育の視察報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和洋女子大学教職教育支援センター年報	6. 最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 拝田清・上野舞斗	4. 巻 6
2. 論文標題 『なぜ』に答える英語の音声指導 2019年度教員免許更新講習を振り返って	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和洋女子大学教職教育支援センター年報	6. 最初と最後の頁 131-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 峰岸真琴	4. 巻 1
2. 論文標題 タイ語の数量表現	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語の種類特徴対照研究会論集	6. 最初と最後の頁 115-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 峰岸真琴	4. 巻 50
2. 論文標題 タイ語の情報構造に関わる諸表現	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 慶應義塾大学言語文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 189-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 FURIHATA, Masashi	4. 巻 24
2. 論文標題 An Analysis of Pitch Movement of Sentences with Topic Markers in Sundanese	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京外大東南アジア学・東京外国語大学東南アジア地域ユニット	6. 最初と最後の頁 80-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uchida, S. and M. Negishi	4. 巻 -
2. 論文標題 Assigning CEFR-J levels to English texts based on textual features.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC 2018)	6. 最初と最後の頁 463-467
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南潤珍・Yi YeongIl	4. 巻 14
2. 論文標題 語彙情報に基づいた日本語話者のための韓国語教育用語彙目録の開発	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 朝鮮語教育、朝鮮語教育学会	6. 最初と最後の頁 25-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李安九・南潤珍	4. 巻 4
2. 論文標題 社会的関係形成を目指す韓国語教材の設計及び開発(原題: 朝鮮語)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 韓国文化教育研究・台湾国立政治大学 韓国文化教育センター	6. 最初と最後の頁 121-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nomoto, Hiroki, Shiro Akasegawa and Asako Shiohara	4. 巻 65
2. 論文標題 Reclassification of the Leipzig Corpora Collection for Malay and Indonesian.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 NUSA: Linguistic Studies of Languages in and around Indonesia	6. 最初と最後の頁 47-66.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/92899	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nomoto, Hiroki, Kenji Okano, Sunisa Wittayapanyanon and Junta Nomura	4. 巻 -
2. 論文標題 Interpersonal meaning annotation for Asian language corpora: The case of TUFs Asian Language Parallel Corpus (TALPCo)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語処理学会 第24回年次大会 発表論文集	6. 最初と最後の頁 846-849
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢頭典枝	4. 巻 7
2. 論文標題 多文化社会カナダのバイリンガル国家運営 英語とフランス語が国民をつなぐ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グローバル・コミュニケーション研究	6. 最初と最後の頁 123-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢頭典枝	4. 巻 6
2. 論文標題 英語の多様性について教える 観点からみる通訳ボランティア育成	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル・コミュニケーション研究	6. 最初と最後の頁 73-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 拝田清	4. 巻 6
2. 論文標題 通時的に見る日本の言語文化教育観 原始・古代を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日英言語文化学会紀要, 日英言語文化学会	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計52件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 20件)

1. 発表者名 スニサー ウィッタヤーバンヤーノン齋藤、富盛伸夫
2. 発表標題 タイ語教育における社会文化的適切性とCEFRへの適用 ポライトネス理論の視点から見た人称詞・呼称表現を中心に
3. 学会等名 外国語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 峰岸真琴
2. 発表標題 情報構造と焦点化について
3. 学会等名 言語の類型的特点をとらえる対照研究会, 第12回研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南潤珍
2. 発表標題 韓国語における『感謝と謝り』の言語特徴
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第5回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南潤珍
2. 発表標題 学習者変因を反映した日本の大学における韓国語教育課程の開発 学習者の社会・文化的特性および母語の言語資源を中心に-
3. 学会等名 国際韓国語教育学会国際学術大会(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南潤珍
2. 発表標題 韓国語母語話者と韓国語学習者の作文から見たハングル正書法の現状と課題
3. 学会等名 2019国際シンポジウム『韓国語教育の現状と課題：韓国語正書法教育を中心に』（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Pengembangan sumber bahasa digital dan konsep asas dalam linguistik Melayu/Indonesia
3. 学会等名 Konferensi Linguistik Tahunan Atma Jaya (KOLITA) 17 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto, Wataru Okubo
2. 発表標題 Persian copulas in focus constructions
3. 学会等名 The Second North American Conference in Iranian Linguistics (NACIL) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Passive subtypes in Malay: Their structures, frequencies and diachrony
3. 学会等名 APHASIA and LINGUISTICS network in Malaysia and Indonesia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野元裕樹
2. 発表標題 代名詞代用語の意味論
3. 学会等名 第159回日本語学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Passive subtypes in Sarawak Malay
3. 学会等名 The Third International Workshop of "Varieties of Malayic Languages" (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Using MALINDO Conc for Malay/Indonesian language classes
3. 学会等名 The Southeast Asian Language Teaching and Learning Symposium (SEALTLs) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Towards genuine stemming and lemmatization in Malay/Indonesian
3. 学会等名 言語処理学会第26回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上田広美
2. 発表標題 カンボジア語における『定価のない商取引』の言語特徴
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第6回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上田広美、スニサー齊藤、岡野賢二、南 潤珍
2. 発表標題 アジア諸語の社会・文化的特質とCEFRアジア版作成の試み - タイ語、ビルマ語、カンボジア語、韓国語 - 」 科研統括班 (スニサー齊藤、岡野賢二、上田広美、南 潤珍)
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第8回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FURIHATA, Masashi
2. 発表標題 On the Particle tea in Sundanese
3. 学会等名 The Seventh International Symposium On The Languages Of Java (Isloj 7) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 降幡正志
2. 発表標題 標準インドネシア語とインドネシア語教育
3. 学会等名 マレー語方言の変異の研究, 2019年度第1回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FURIHATA, Masashi
2. 発表標題 Dilema antara Desakan Standardisasi (BIPA) dan Praktik Pengajaran
3. 学会等名 11th International Conference on Teaching of Indonesian to the Speakers of Other Language. INCULS, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野元裕樹、降幡正志、鈴木玲子、藤森弘子
2. 発表標題 アジア諸語の社会・文化的特質とCEFRアジア版作成の試み(2) - マレーシア語、インドネシア語、ラオス語、日本語 -
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第9回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森山幹弘, 降幡正志, 原真由子
2. 発表標題 インドネシア語応用教材に関する共同研究からの報告
3. 学会等名 第50回日本インドネシア学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoru Uchida, Masashi Negishi
2. 発表標題 Assigning CEFR and CEFR-J levels to Lexile measures: A corpus-based approach
3. 学会等名 New Directions English Language Assessment Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Barry O' Sullivan, Masashi Negishi, Meg Malone
2. 発表標題 The CEFR: Learning, teaching, assessment in Europe and beyond
3. 学会等名 The CEFR: a road map for future research and development (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 スニサー ウィッタヤーバンヤーノン(齋藤)
2. 発表標題 タイ語における『挨拶』の言語特徴
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第5回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富盛伸夫
2. 発表標題 CEFRの社会文化的コミュニケーション能力測定に関わる問題点と研究展望 - アジア諸語領域での総合的研究成果のまとめ -
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第9回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 富盛伸夫
2. 発表標題 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したコミュニケーション能力記述方法の開発とCEFRへの応用に向けて
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第5回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡野賢二・トゥザライン
2. 発表標題 ビルマ語における『依頼と断り』の言語特徴
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第5回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富盛伸夫
2. 発表標題 CEFR2018年版(Companion Volume)で提案された社会・文化的コミュニケーション能力の評価枠組みと、アジア諸語の言語コミュニケーションにおける『適切性』(appropriateness)について
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第6回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富盛伸夫
2. 発表標題 CEFRの複言語・複文化主義の理念とアジア諸語教育への適用可能性
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第7回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富盛伸夫
2. 発表標題 アジア諸語の呼称と人称詞 -ポライトネスの視点から-
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第7回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田原洋樹
2. 発表標題 CEFR『準拠』への道程 -立命館アジア太平洋大学でのCEFR実装例-
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第8回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富盛伸夫
2. 発表標題 アジア諸語教育における社会・文化的項目とCEFRを活用した評価方法について
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第8回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 拝田清・上野舞斗
2. 発表標題 help 構文におけるto の出沒について：大規模コーパスによる調査から
3. 学会等名 日英言語文化学会第15回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 峰岸真琴
2. 発表標題 タイ語の数量表現再考
3. 学会等名 言語の類型特徴をとらえるための対照研究会 第8回公開発表会. 大阪府立大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masashi Negishi, Yoji Kudo, Yasuko Okabe, Yuko Kashimada, Mika Hama, Yuko Umakoshi
2. 発表標題 Linking the Global Test of English Communication (GTEC) to CEFR Levels.
3. 学会等名 LTRC 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 S.Uchida and M. Negishi
2. 発表標題 Assigning CEFR-J levels to English texts based on textual features.
3. 学会等名 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC 2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Zhou Yujia, Jamie Dunlea, Masashi Negishi, Asako Yoshitomi
2. 発表標題 Collecting a Priori Validity Evidence during the Development of a Computer-based Speaking Test for Japanese University Admission Purposes.
3. 学会等名 第1回JAAL in JACET 学術交流集会(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 根岸雅史・岡部康子・鹿島田優子
2. 発表標題 GTEC スコアとCEFR 関連付け調査～A1/PreA1 レベル
3. 学会等名 全国英語教育学会 京都研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 根岸雅史
2. 発表標題 CEFR-Jのテスト・タスク開発概観
3. 学会等名 CEFR-J 2019 in 京都
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FURIHATA, Masashi
2. 発表標題 Partikel 'wa' dalam Bahasa Jepang dari Segi Studi Kontrastif dengan Bahasa Indonesia dan Bahasa Sunda
3. 学会等名 Simposium Peringatan 60 Tahun Hubungan Diplomatik Indonesia-Jepang: "Peran Akademisi dalam Peningkatan Interaksi Budaya". Universitas Indonesia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nomoto, Hiroki, Shiro Akasegawa and Asako Shiohara
2. 発表標題 Building an open online concordancer for Malay/Indonesian
3. 学会等名 The 22nd International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL) 米国、カリフォルニア大学ロサンゼルス校.(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野元裕樹、大久保弥
2. 発表標題 ペルシア語の焦点構文におけるコピュラの生起制限
3. 学会等名 第157回日本語学会大会. 京都大学.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nomoto, Hiroki and Faridah Moahamed
2. 発表標題 Factors affecting Japanese university students' choice of their major second foreign languages.
3. 学会等名 Asia-Pacific Symposium for the Teaching of Asian Languages, the Eighth CLS International Conference (CLaSIC 2018). シンガポール国立大学.(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野元裕樹、川村よし子
2. 発表標題 マレー語学習者を対象にした読解学習支援システムの開発について
3. 学会等名 外国語教育学会第22回研究報告大会. 東京外国語大学.
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 Nomoto, Hiroki
2. 発表標題 Anti-classifier contexts
3. 学会等名 ベトナム社会科学アカデミー言語学院, ベトナム、ハノイ.(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nomoto, Hiroki, Kenji Okano, Sunisa Wittayapanyanon and Junta Nomura
2. 発表標題 Interpersonal meaning annotation for Asian language corpora: The case of TUFS Asian Language Parallel Corpus (TALPCo)
3. 学会等名 言語処理学会第25回年次大会. 名古屋大学.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富盛伸夫
2. 発表標題 CEFR研究の最新動向とアジア諸語の社会・文化的特質に関わるCEFR項目の提案
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第3回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富盛伸夫
2. 発表標題 アジア諸語の社会・文化的ストラテジーに関わるCEFR調査指標の策定
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究, 第2回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富盛伸夫
2. 発表標題 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究に向けて：企画と展望
3. 学会等名 アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究，第1回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富盛伸夫
2. 発表標題 CEFRと言語教育の現在、欧州諸語からアジア諸語への適用妥当性
3. 学会等名 外国語教育学会第22回研究報告大会，東京外国語大学，（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroki TAHARA
2. 発表標題 Cam tuong cua mot cuu sinh vien
3. 学会等名 ホーチミン国家大学，社会科学人文大学ベトナム学部開設20周年記念式典，（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroki TAHARA
2. 発表標題 Giang day tieng Viet nhu mot ngoai ngu tai mot truong dai hoc quoc te o Nhat Ban
3. 学会等名 International Workshop on Vietnamese Language Teaching and Testing，成功大学（台湾・台南市），（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki TAHARA, TRAN Thi Minh Gioi
2. 発表標題 May nhan xet ve lop tieng Viet o Kobe
3. 学会等名 国際シンポジウム"Globalization and its impact on teaching and learning Vietnamese. トン・ドゥック・タン大学(ホーチミンシティ).(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 スニサー ウィッタヤ パンヤーノン(齋藤)
2. 発表標題 タイ語での一人称表現使用 実態 とタイ語教育への活用
3. 学会等名 外国語教育学会(JAFLE) 外国語教育学会第22回研究報告大会. 東京外国語大学.
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 信田敏宏・他(編)降幡正志	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 188-191
3. 書名 東南アジア文化事典(インドネシア語)	

1. 著者名 鈴木玲子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 168
3. 書名 ニューエクスプレスプラス ラオス語	

1. 著者名 投野由起夫、根岸雅史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 264
3. 書名 教材・テスト作成のためのCEFR-Jリソースブック	

1. 著者名 スニサー・ウィッタヤーパンヤーノン	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 176
3. 書名 タイ語駅伝 らくらく文字マスター	

1. 著者名 酒井英樹、根岸雅史・他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 128
3. 書名 CROWN Jr. 5	

1. 著者名 酒井英樹、根岸雅史・他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 128
3. 書名 CROWN Jr. 6	

1. 著者名 Sylvain DETEY Jacques DURAND Bernard LAKS Chantal LYCHE : 川口裕司、矢頭典枝、秋廣尚恵、杉山香織、共編訳、	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 232
3. 書名 フランコフォンの世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>本研究の成果発信は主として、東京外国語大学語学研究所のWebサイト内にある「協働科研」にリンクされたページで参照することができる。  「アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究」  (<a href="http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/Asia_CEFR2020/index.html">http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/Asia_CEFR2020/index.html</a>)</p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	峰岸 真琴 (MINEGISHI MAKOTO) (20183965)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授  (12603)	
研究分担者	岡野 賢二 (OKANO KENJI) (60376829)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授  (12603)	
研究分担者	上田 広美 (UEDA HIROMI) (60292992)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授  (12603)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	南 潤珍 (NAM YUNJIN)  (30316830)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授  (12603)	
研究分担者	拝田 清 (HAIDA KIYOSHI)  (00597718)	和洋女子大学・国際学部・教授  (32507)	
研究分担者	齋藤 スニサー (SAITO SUNISA)  (60791671)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・教授  (12603)	
研究分担者	根岸 雅史 (NEGISHI MASASHI)  (50189362)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  (12603)	
研究分担者	鈴木 玲子 (SUZUKI REIKO)  (40282777)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  (12603)	
研究分担者	藤森 弘子 (FUJIMORI HIROKO)  (50282778)	帝京大学・外国語学部・教授  (32643)	
研究分担者	降幡 正志 (FURIHATA MASASHI)  (40323729)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授  (12603)	
研究分担者	野元 裕樹 (NOMOTO HIROKI)  (10589245)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授  (12603)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田原 洋樹  (TAHARA HIROKI)  (60331138)	立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授   (37503)	
研究分担者	矢頭 典枝  (YAZU NORIE)  (10512379)	神田外語大学・外国語学部・教授   (32510)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	山崎 吉朗  (YAMAZAKI YOSHIRO)		
研究協力者	荻原 寛  (OGIWARA YUTAKA)		
研究協力者	内藤 理佳  (NAITO RIKA)		
研究協力者	スライマーン アラーエルディーン  (SOLIMAN ALAAELDIN)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 Language Education in Asia-Pacific Region: Current Issues of Australia and Malaysia	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Plurilingual Situation and Language Education in the Philippines	開催年 2019年～2019年

国際研究集会 Philippine English and World Englishes	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Mapping English in India in Time and Space	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------